

此九古利子之長七倍分与紙成者一也

是の定規の四年分

中修の事

一 考定一 枚

在る様  
印の様

一 御修絶云

一 御修絶百枚

一 御修絶了る様

一 御修了る様

一 御修絶了る様

一 御修了る様

一 御修了る様

一 御修了る様



楊子仙方

湯打骨接接

湯打骨接接

湯打骨接接

湯打骨接接

湯打骨接接

湯打骨接接

湯打骨接接

湯打骨接接

湯打骨接接

湯打骨接接

湯打骨接接

湯打骨接接

湯打骨接接

湯打骨接接

湯打骨接接

楊柳

湯打骨接接

湯打骨接接

敵柳

一 河島守元 但打地草中より之の  
刀を奪ひておこしたる

一 河島守元 法也

一 因行

一 因行

一 因行 自白の条採集す

因行 自白の条採集す

一 河津 上川之所

一 河津 打合

打合

一 河津 古所

一 河津 古所

一 河津 古所

一 河津 古所

一 河津 古所

一 河津 古所

一 河津 古所

一 河津 古所

一 河津 古所

一 御栗弁弁

一 御栗弁弁

一 御栗弁弁

一 御栗弁弁

一 御栗弁弁

一 御栗弁弁

一 御栗弁弁

一 御栗弁弁

一 御栗弁弁

一 御栗弁弁

一 御栗弁弁

一 御栗弁弁

一 御栗弁弁

一 御栗弁弁

一 御栗弁弁

御栗弁弁二十

右 御栗弁弁

右 御栗弁弁

右 御栗弁弁

右 御栗弁弁

右 御栗弁弁

右 御栗弁弁

右 御栗弁弁

御栗弁弁



一 山打根之平

一 山打根

一 山打根之山

一 山打根

一 山打根

### 山打根

一 山打根之山

山打根之山  
山打根之山  
山打根之山

一 山打根之山

一 山打根之山

一 山打根之山

一 山打根之山

一 山打根之山

山打根之山  
山打根之山

### 山打根之山

一 山打根之山  
山打根之山

一 山打根之山

山打根之山

山打根

山打根之山

一 平田 比類なき 二 ちたに 平太の御堂に  
ありあり

一 有月 梅子の御堂に  
ありあり

是

一 刻限事  
照せらるる人形御  
る大矢打の御堂に  
この御堂にあり

一 人形御の時限中より受すしん  
あり

一 ちたに 平太の御堂に

一 あひ路し ちたの御堂に

あり

一 ちたに 平太の御堂に

一 ちたに 平太の御堂に

一 ちたに 平太の御堂に

あり

ちたに

あり

ちたに 平太の御堂に

ちたに 平太の御堂に

一 具に 平太の御堂に

初め  
うらぬかき

一 貝のうらぬかきし押事

一 海をうらぬかきし。彼はとる友あかき

彼をうらぬかきし。彼はとる友あかき  
能く脚をうらぬかきし。とりおれ  
うらぬかきし。

一 海をうらぬかきし。彼はとる友あかき

うらぬかきし。彼はとる友あかき  
能く脚をうらぬかきし。とりおれ  
うらぬかきし。

一 海をうらぬかきし。彼はとる友あかき

うらぬかきし。彼はとる友あかき  
能く脚をうらぬかきし。とりおれ  
うらぬかきし。

うらぬかきし。彼はとる友あかき  
能く脚をうらぬかきし。とりおれ  
うらぬかきし。

うらぬかきし。彼はとる友あかき  
能く脚をうらぬかきし。とりおれ  
うらぬかきし。

一切のうらぬかきし。彼はとる友あかき



記しつゝおのれを以て身はなかりに成す  
了りしなりと云物し時を経るに物も  
かゝるゝ一のちを記し仕はしり成す  
るを、乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち  
おのれを以て身はなかりに成す

一切の物と見えと見え久くを方難  
なるありしは、乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち

乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち  
乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち  
乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち

○日向國の地也、年日向國の地也

一言七百五十八首七拾八本、  
言福右近守地、  
日向抄地言

百拾五石八斗、  
寺社  
乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち  
乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち  
乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち

乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち  
乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち

文和武年

辰九日

松屋  
小川  
乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち

乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち

九月廿七日

長崎奉行

長崎奉行

御奉行

元和三年

辰九月廿七日

佐世島

島奉行

島奉行

島奉行

島奉行

島奉行

島奉行

御奉行  
長崎奉行

中札

御奉行  
長崎奉行

中記

清氣候より五月三日石

拾遺書の  
おぼやかしき

徳月市  
伴丹  
松平